

安東真衣さん

なごや朝大学事務局

PROFILE

MAKI ANDO

大学卒業後、食品メーカーに勤務し名古屋・大阪で4年間営業を担当した後、名古屋市内の私立大学職員に。2013年「なごや朝大学」の受講をきっかけに、2014年より同大学の事務局として運営・管理等を行う。

安東さんの活動場所 なごや朝大学



<https://n-asadai.jp/>

「あいちの山里エリア」は
いつでも温かく迎えてくれる
私にとって優しい場所



新城市の山あいであり、秘湯らしき趣漂う「湯谷温泉街」。安東さんは、家族でのドライブや日帰り電車旅などでもよく訪れているそう。

食文化から自然、歴史ある名所と、
人々の営み。このエリアの魅力
「ひと・こと・もの」を発信したい

宇連川沿いに旅館が建ち並び、溪谷美を眺めながら歴史ある名湯が堪能できる新城市湯谷温泉。「目前に広がる緑、川のせせらぎ、星空と温泉。地酒を片手に仲間と大きな話をするもよし、静かに自分と向き合う場所としても」と話すのは、県内の私立大学職員で、ブライベートではなごや朝大学事務局（以下、朝大）をしている安東真衣さん。

朝大とは、東海エリア各地域の「ひと・こと・もの」や「ライフスタイル」をテーマにした講座を企画・運営する市民大学のこと。授業は主に通勤前の「朝時間」に開講され、学生からビジネスパーソン、シニアまで幅広い受講生がまちの資源を生かした提案を行い、地域を元気にする活動を行ってきました。

2013年、SNSで朝大を知った安東さんは地域プロデューサークラス（三重・菟野町編）を受講。「私自身、東海エリアの事を知らなすぎたので、各地域に根付く食文化の歴史や伝統文化などの魅力を知ることができる朝大の活動はとても刺激的で、1年後には講座運営を手伝うように。2015年の三河の山間エリアの魅力と課題を学ぶ『山里クラス』、続く2016年の新しいライフスタイル提案としてMiyuシエアベースを考える『おんせんシエアベースクラス』が湯谷温泉との出会いです」。20名の受講生とフィールドワークでこの地を訪れ、旧門谷小学校での宿泊や鳳来寺山の登山などを通して、「あいちの山里」を体感しその魅力に惹かれていったそう。

PLACE

旧門谷小学校



「ドラマのロケ地などにもなっているこの場所に宿泊。遅くまで受講生みんなで話し合い、川の字になって寝たのは良い思い出。マルシェなども開催されていて雰囲気癒されます」

☎ 0536-29-0829(新城市観光協会)
📍 愛知県新城市門宮谷下26

THINGS

まつやの五平餅



「食べ応え満点!の厚みのある五平餅。しっかりと炭火で焼かれていて、湯谷温泉に行ったら必ず食べたい一品です」

☎ 0536-32-0819
📍 愛知県新城市豊岡滝上59-8
→ P30でも紹介しています

EVENT

奥三河Rainbow Rock Fes



「忌野清志郎氏が生前足繁く通った、新城市で開催された音楽フェス。第1回開催時にスタッフで参加しました。次回の開催を楽しみにしています」

<https://www.rainbowrockfes.com/>

安東さんの新城リコメンド

場所、モノ、コト



1.インタビューを行った『Hoo! Hoo!』(→P30でも紹介しています)のテラス席。「加藤直詳さん(『Hoo! Hoo!』のオーナーであり湯谷温泉発展会会長:写真左)は、いつも温かく迎えてくれます」と安東さん。
2.『Hoo! Hoo!』の窓の外には心身ともに浄化されるような、美しい景観が広がります。



「なごや朝大学に入学・参加した『地域プロデューサークラス(三重・菟野町編)』で東海エリアの魅力を再認識しました」



「奥三河とのつながりが増えたきっかけのひとつ、『おんせんシェアベースクラス』」



「講座受講生を中心としたボランティアで、『Hoo! Hoo!』の床塗りや石垣磨きなどを手伝いました」



3.4.なごや朝大学の仲間たちと一日女将を務めた「ゆや奥茶房」では、多くのお客さんに地元の食材の魅力などを紹介することができました。5.カフェ&ゲストハウス『Hoo! Hoo!』。「ホームだと言わせてもらえる場所。またここで仲間たちとわくわくするようなことをやりたいな」。

また講座の講師「はづグループ」若主人・加藤直詳さんとの出会いをきっかけに、新施設『Hoo! Hoo!』の立ち上げに参加。完成後に企画した、奥三河の食材や地酒、ものづくりを行う人たちを紹介する「ゆや奥茶房」で、朝大受講生らと一日女将を務めた経験など、湯谷温泉とのダイブな関わりが、まさにMyシェアベースとしての意識付けに。

「仕事と日々の暮らしに加え、もうひとつの場所」を見つげるために朝大に参加し、今まさに『あいちの山里』が私の3rdプレイスのひとつだと感じます。名古屋から車で1時間半の湯谷温泉を拠点にして、素敵な「ひと・こと・もの」が、点から線、面となつてつながって知れることは、生活に彩を与えてくれていく気がします。今は、コロナもあつて活動が慎重にならざるを得ませんが、これからもこのエリアの魅力を知る『ぎっかげづくり』をしていけたらなと思っています」。